



「時雨庵文庫」について

秋田県立図書館 館長 伊藤 成孝



この四月から秋田県立図書館長及びあきた文学資料館長、こども読書支援センター長を務めております伊藤成孝と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

秋田県立図書館は明治三二（一八九九）年創立で今年で百二十五年を迎えます。令和五年度末の所蔵資料は一、〇二四、〇六四冊（二階閲覧室での開架資料は約十九万冊）、年間来館者数は三三五、五七〇人（一日平均一、一三四人）となっております、おかげ様でたいへん多くの皆様にご利用いただいております。

さて、こうした百万点にも及ぶ膨大な所蔵資料の中に『時雨庵文庫』という資料群があります。この資料は、安藤和風（はるかぜ）（慶応二（一八六六）〜昭和一一（一九三六））氏が収集し、大正五（一九一六）年頃から世を去るまでに、都度当館に寄贈されたもので、平成七（一九九五）年にご子息五百枝氏より追加寄贈された九十八点を加え計一、九五七点に及び、その俳号にちなんで『時雨庵文庫』の名を付しています。

和風は秋田藩士安藤和市の長男として生まれ、自由民権運動の影響を受け、秋田日日新聞入社、秋田日報（秋田魁新報の前身）、秋田市書記等を経て秋田魁新報社に復帰後、明治三四（一九〇一）年に主筆、昭和三（一九二八）年からは社長として敏腕を発揮するなど卓越した新聞人であったばかりでなく、俳人、郷土史研究者として知られています。著書も多く、『秋田の土と人』『秋田人名辞書』『秋田勤王史談』等の他に、俳句関係では『俳諧新研究』『五明句集』等をまとめ、また、俳誌『俳諧初しぐれ』等を主宰し、『旅一筋』『仇花』『朽葉』等の句集を遺しました。

個々の資料については、『秋田県立秋田図書館所蔵 時雨庵文庫 目録 付書名索引』（昭和四五（一九七〇）年三月）によって一覧できますが、読書・出版、哲学、歴史・地理、社会・自然科学、芸術、語学、俳諧文学等日本十進分類法のほとんど全分野にわたっており、和風のまさに博覧強記とも言うべき面がうかがえます。

時雨庵文庫資料の展示としては、近年では平成七年の追加寄贈資料を中心として翌年企画展が行われていますし、令和三（二〇二一）年には、特別展示「安藤和風と秋田を愛した新聞人」が、そして、今年令和六（二〇二四）年十月には、秋田魁新報創刊一五〇周年を記念して、本社さきがけホールにての展示にも俳諧資料を中心に出版しています。

さらに、江戸時代中後期の秋田の俳人吉川五明の稿本類並びに係資料の内当館所蔵の二十一点附三点は、令和四（二〇二二）年三月に秋田県指定有形文化財（書跡・典籍）に指定されています。

こうしたご縁を踏まえ、当館としては今後『時雨庵文庫』資料群の調査・分析等をさらに進め、県民利用者の皆様に還元していくことができれば幸いです。



和風が収集した藩政期の資料



和風の作品である俳句・墨書類

『サービス向上のための評価アンケート』結果

県立図書館では、今後の図書館サービスの向上に活かすため、利用者の皆様へ『サービス向上のための評価アンケート』を行いました。その結果をまとめたものの一部を紹介します。

■実施期間 令和6年9月5日（木）～12日（木） 7日間 ※9月11日（水）は休館日

■実施方法 閲覧室入口でアンケート用紙を配布し回収

■回答者数 延べ403人（内有効401人）

※前回は令和4年度に実施

◆調査項目と回答結果

1 回答者についての質問

■年齢

年代については、中高年、高齢者の利用が顕著であり、40代～70代で73.6%を占めました。

■住所

秋田市内の方が91.6%、その他8.4%でした。県外からの来館者は2名でした。

■利用目的 ※複数回答可

76.8%の方が自分の趣味や楽しみでの利用でした。また、個人や仕事上の調査研究、資格試験等のための勉強としての利用が合わせて45.9%あり、図書館本来の役割や機能に沿った利用がなされていることがわかりました。

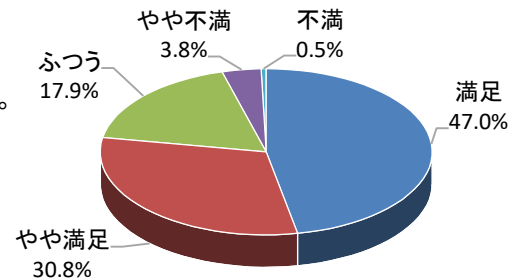
■利用頻度

月に2～3回の利用が30.4%と最も多く、続いて週1回が19.4%、週に2～3回の利用が17.1%でした。

2 図書館サービスについての質問

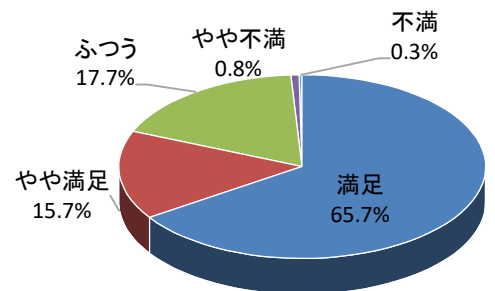
①本館が提供している資料(図書、雑誌等)について、満足していますか。

資料が充実しているとの評価を多くの方からいただきました。具体的な指摘のあった部分については、今後の資料選定の参考にさせていただきます。



②本館の職員の対応について、満足していますか。

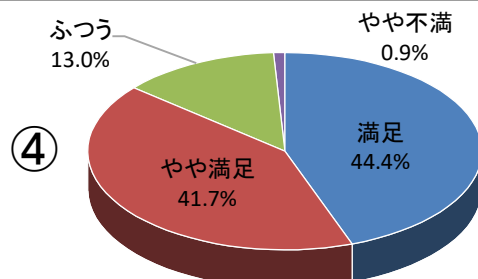
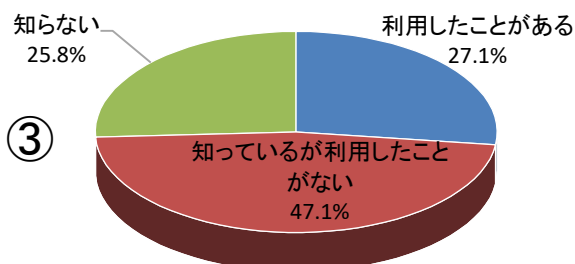
多くの方から、「親切」「丁寧」という肯定的な評価をいただきましたが、一方で「不満」とした方の自由記述には厳しいコメントもありました。今後も職員全体のスキルアップとサービスの改善に取り組んでまいります。



③生活や仕事等の課題解決サービスについて、知っていますか。また、利用したことがありますか。

④利用した人はこのサービスについて、満足していますか。

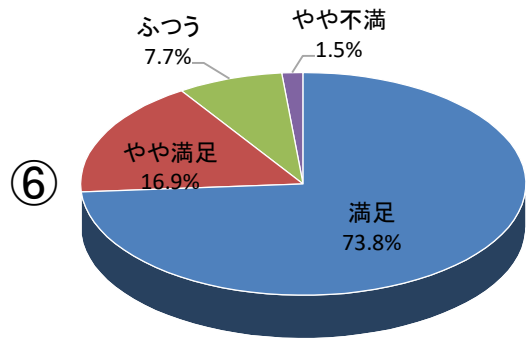
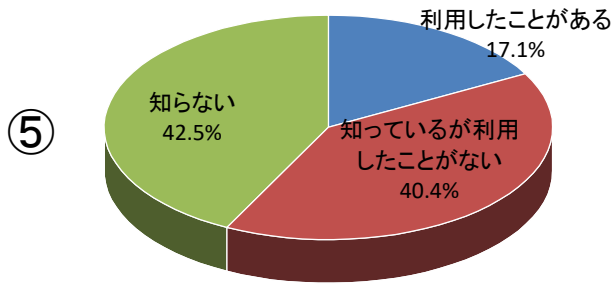
約7割の方が知っていました。今後も課題解決サービスの周知を図り、利用者数の増加と満足度の上昇に取り組んでまいります。



⑤レファレンス・サービスについて、知っていますか。また利用したことがありますか。

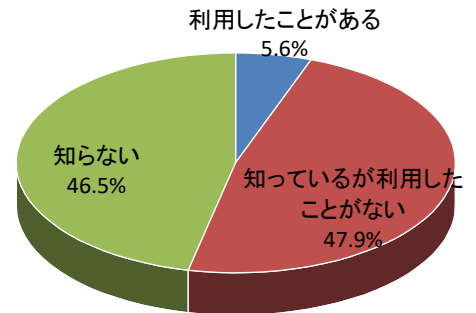
⑥利用した人は、このサービスについて、満足していますか。

前回より認知度が若干ですが高くなりました。引き続き職員のレファレンススキルの向上を図ってまいります。



⑦視覚に障害を持つ利用者向けのサービスについて、知っていますか。また利用したことがありますか。

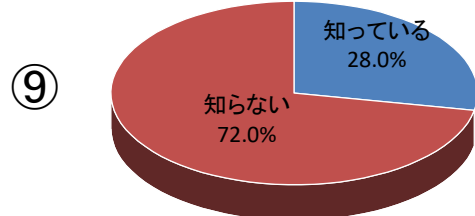
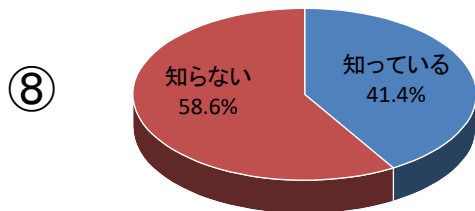
半数以上の方が知っていました。提供サービスの充実を図るとともに、引き続き本サービスの周知を図ってまいります。



⑧県立図書館が、市町村立図書館等を支援する役割があることを知っていますか。

⑨県立図書館が、小中学校や高等学校、特別支援学校へ資料の貸出を行っていることを知っていますか。

どちらも認知度が低くなっています。市町村立図書館等への支援業務および学校支援業務は、カウンターサービスや郷土資料の収集と合わせ、本館の大きな役割の一つです。今後も県民の皆様にご理解いただけるよう取り組んでまいります。

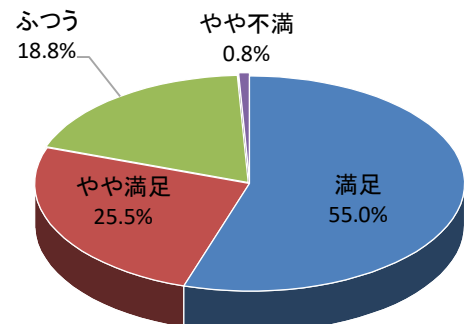
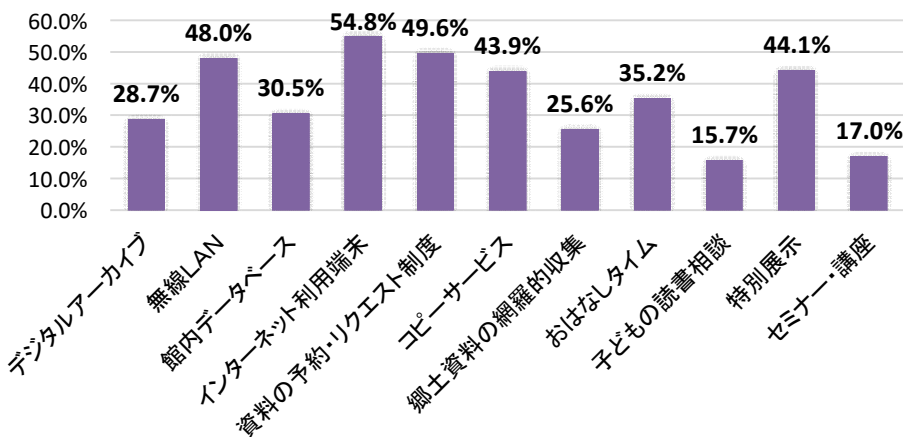


⑩県立図書館では様々なサービスを行っていますが、それらについて知っていますか。※複数回答可

⑪全体として本館のサービスについて満足していますか。

「おはなしタイム」の認知度が前回よりも10%以上高くなりました。コロナ禍で中止していたイベントの再開が一因と思われますが、今後も諸サービスの周知を進めてまいります。

満足・やや満足を合わせ80%の評価をいただきました。今後も満足度の向上に全職員で取り組んでまいります。



Pick up

～各チームからの話題～

図書資料チーム

西洋音楽を伝えた秋田の音楽家 小松 耕輔

郷土資料として小松耕輔に関する資料（『明治天皇昭憲皇太后御読唱歌集』、『大正幼年唱歌』等）を収集しました。

由利本荘市（旧玉米村）出身の小松耕輔は東京音楽学校（現在の東京芸術大学）在学中、音楽雑誌の編集を手がけるとともに日本初となるオペラ「羽衣」を作曲した人物です。学校卒業後は皇族の唱歌教育に携わった他、数多くの校歌や童謡を作曲し、音楽家として森鷗外や北原白秋らとも親交がありました。

今年は生誕140周年に当たることから、当館では6月下旬から7月にかけて閲覧室にて小松耕輔関連資料の展示を行いました。



小松耕輔関連資料展示の様子

情報チーム・サービスチーム

図書館をもっと便利に～データベースのご案内～



データベース利用席

膨大な数の資料から知りたい情報を探し出すのは大変だと思ったことはありませんか。そんな時はデータベースをおすすめします。

当館では、新聞、農業情報など、8種類のデータベースが利用できます。

データベースは最新の情報を手軽に入手することができます。紙の資料と組み合わせるとより便利になります。例えば、新聞で明治時代の出来事を調べる時は新

聞・マイクロフィルムの調査では時間がかかります。しかし、データベースならキーワードを打ち込むだけで簡単に調べられ、マイクロフィルムを利用するための記事のヒントを得られるかもしれません。

使い方や検索方法はカウンターでご案内しておりますので、気軽にお声がけください。

企画・広報チーム

令和6年度(第48回)秋田県図書館大会

「未来につなぐ図書館－児童・生徒へのサービスを考える－」をテーマに、10月11日(金)、県生涯学習センターで開催されました。

始めに、青山学院大学教育人間科学部 准教授の庭井史絵氏が「学校内外に広がる学びを支援する－公共図書館による学校教育支援の可能性－」と題して基調講演を行い、GIGAスクール時代の児童・生徒が学ぶ場・使う資料の広がりや、教員との連携の仕方など、先進事例をお話いただきました。

事例発表は、湯沢市立図書館と大館市立栗盛記念図書館から、学校図書館支援や多種多様なイベントなどを御紹介いただきました。



庭井准教授による講演

Event

～イベント・催し物のお知らせ～

■近代美術館との連携展示

特別展示「物語のある絵画～近代美術館のコレクションから～」

井原西鶴の『好色五人女』に登場するお七を題材にした山村耕花の《お七吉三》や、おとぎ話「舌切り雀」を題材にした小杉放菴の《雀の御宿》など、近代美術館の収蔵品の中から、日本の説話や絵本の挿絵、中国の故事など物語とともに描かれた絵画作品を紹介します。

【期間】 11月15日(金)から12月24日(火)まで

【時間】 午前9時30分から午後5時まで

【会場】 特別展示室

【入場料】 無料